

第 13 回総会議事録

日時 2000 年 3 月 29 日(水) 12:00-13:00

場所 愛媛大学共通講 11(C 会場)

議事

2000 年日本原子力学会春の年会期間中の上記の日時、場所において、炉物理部会総会を開催した。議事の内容は以下の通りである。

(1)次期運営委員の選任について

次期運営委員について、立候補者がなく、部会長以下各運営委員を青木現部会長から推薦した。推薦された各委員は一括で承認をされ、選任された。また、本議題以降の議事進行を相沢新部会長が進めることとした。

(2) 部会会計の運営方法の変更について

本年度会計の中間収支報告について、山根委員より説明があり、了承された。また、税法上、部会内に留保金を持つことは好ましくなく、来年度以降の部会留保金を今後 5 年で適正に使用する予算計画および来年度の予算書の提案があった。小林啓祐氏より、重要な問題については事前にメール等で部会員に知らせ、意見を募集して欲しいとのコメントが出された。議論の結果、予算計画は大枠で承認され、今後、詳細を詰めて行くこととした。

(3) 2000 年秋の大会における企画セッションについて

来年度予算に基づき、韓国から代表的な炉物理関係の教授を呼び、講演やディスカッションを行う計画や、若手中心のセッションも行ってはどうかとの提案、説明があった。

(4)2000 年夏期セミナーの予定について

工藤委員より、湯布院での開催計画(7/31~8/2)が説明された。テーマとして「JCO 事故の炉物理的検討」を考えており、その他のテーマとして、「加速器駆動未臨界炉と核変換」や

「炉物理計算手法の最近の進展」を考えているとの説明があった。

(5)内規の改訂について

前回の総会で承認された運営委員や任期等に関する内規改定について、最終的な文案を提案し、了承された。今後、学会企画委員会と理事会での了承を得て、施行となる。

(6)部会報とニュースの発行について

部会報については2回の発行を予定し、今回の春の年会の後、JCO事故の炉物理学の観点からの検討と春の年会における炉物理・熱流動合同企画セッション「BWR核熱水力安定性研究の現状」を特集とする部会報を出すことが報告された。また、新運営委員や内規改定等について、炉物理部会ニュースを発行しする予定との報告があった。

(7) その他

企画委員会の竹田委員から、平成13年度から所属する部会について学会からアンケートが来ること、学会からの部会への予算配分の観点からも炉物理部会に加入して欲しいとの説明があった。ANSとの日米セミナー開催への部会レベルでの活発な活動に関し、意見が述べられた。

編集委員会関係では青木現部会長から学会誌改訂に当たり、部会の紹介記事が載せられること、炉物理部会の第1番目となり、現在、原稿を作成、とりまとめ中との説明があった。また、岩崎委員から、学会誌に平川先生による「原子炉物理」の連載講座が4月から始まるとの紹介があった。

炉物理委員会の中川委員から委員会の改変により、3つのテーマに関し、各ワーキングパーティが発足し、活動を開始したとの報告があった。

標準炉物理コードWGの活動に関し、小林啓祐氏より、紹介があった。

佐治氏より、ANSミーティングにおける原子炉解析における大規模計算に関する特別セッションの開催とペーパーの募集について紹介があった。

本日、夜に開催される炉物理部会懇親会への積極的参加を呼びかけた。

以上

